

Handsome

発行人：鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 水 康德 編集責任者：桶村清子 34期広報委員会 印刷所：東京印刷株式会社

1 月 例 会

「高齢者と子どものかかわりを活かしてコミュニティを活性化する方法」



平成21年1月15日鳥取県立武道館に於いて、Neoラ・ヴィ委員会主催のもと1月例会が開催されました。

冒頭水会長より、「今期もあと半年、積極的な中央会活動への参加をお願いしたい」と挨拶がありました。

続いて委員長タイムでは、エリアデザイン委員会、茅野康洋委員長より就職から独立起業までの苦労話、また会社名である“家楽”への熱い思い、新規客獲得への企画立案の重要性など、「お客様を大事にする」という基本姿勢のもと営業活動されているご自身の考えを話されました。

今回の例会は、「高齢者と子どものかか

わりを活かしてコミュニティを活性化する方法」と題して、今期では初めてでもあるワークショップ形式で行われました。

はじめに、川端委員長よりNeoラ・ヴィ委員会の活動指針の説明がありました。「これからの時代を楽しく快適に過ごす為の賢い方法」を模索していく中で、みんなが楽しく過ごす為、何が必要で、何を守っていくのか問題提起されました。その中で、我々を取り巻く地域社会の変化として、少子高齢化・核家族化が進んでいる現状があります。この共通の弊害を考えたときに、コミュニケーション不足・連帯感の喪失をあげられました。高齢者と子どもたちの関わりが強くなったら上記の弊害も解消され、地域の活性化・世代間の橋渡し・安心・感謝の気持ちが生まれるのではないかと。そこで、子どもと高齢者のかかわりを活かしコミュニティを活性化する方法を「公民館の活用方法」「それ以外の地域のチカラ」2つの課題から検証していきます。

いよいよワークショップが始まりました。会員を世代ごとにA～G7つのグループに分け、ファシリテーターによる進行のもと各グループ自由闊達な意見交換を行いました。みなさん講演形式の受身型ではなく、ワークショップ形式という参加型例会に気分十分!? あちこちで盛り上がった討論が会場中を取り巻き、発表に期待がかかります。あっという間に50分間のディスカッションが終わり、各グループの発表に移りました。

トップバッターは、Bグループ。トップバッターとしての重圧をまるで感じさせない手島県出向理事から発表がありました。はじめに「地域のコミュニティが衰退しているのは…必要ないから」と大胆な発言があり、会場中にどよめきが起こるなか、それを必要なものにし、子どもと高齢者との橋渡しを実現する為には、我々「青年」のチカラが必要である、と述べられました。そして、人を集める為の方法として「全小学校の芝生化」という提案がなされ、本当に実現できたらいいなと思える、非常に共感できた素晴らしい提案でした。

その他にも、子どもと高齢者が活動をともし、共感できる場・イベントの創出を提案したグループが多くありました。例えば「名人大会」と題した催しでは、ベーゴマなど昔の遊びを今の子どもたちに伝え、高齢者と子どもがともに遊べる場を提供していく。ほかに、「農業体験」「虫取り」「公民館を利用した宿泊体験」など様々な提案がなされました。

また、実現する為の課題として、保護者と自治会との連携にまで言及したグループもあり、真剣さを感じられる素晴らしい発表が続きました。

最後に、Neoラ・ヴィ委員会川端委員長より今回のワークショップで生まれた様々な提案について、「委員会で精査し実現できるよう委員会活動を加速させていきます。」との総括があり1月例会は閉会しました。

私自身、少子化には真っ向から勝負を挑んでおりますが、核家族でもあり地域との繋がりもない状況の中で、我々親の世代が一步踏み出し、地域と積極的にかかわりをもつことが重要である、と感じることが出来た例会となりました。

(記事：高塚)



委員会訪問

ビジネス委員会の巻

不景気に打ち勝つ！！CS(顧客満足)セミナー開催



1月9日(金)米子ニューアーバンホテルにおいて、第7回ビジネス委員会が開催された。今委員会は講師セミナー 第1弾として、第32期ご卒会の村岡誠一OBをお迎えし「コミュニケーションを媒体としたCS(顧客満足)」についてご講演いただいた。冒頭、十数年前から言われているCS。今でも様々な講演会等もあり様々な話しを聞いているうちに考えが変わってきた。なぜ顧客満足なのか？本来の目的は企業存続のためではないのか？そのために必要不可欠ではあるが、まずは企業の努力①利益を上げる②顧客に支持される③商品(サービス)の充実と戦略(マーケティング)④経営者(人

格・能力・経営理念)と社内環境(社員教育・福利厚生・モチベーション)の要素がすべて備わることにより企業の信用・信頼が生まれ、強いてはCSも成り立っていくと話された。

続いて、村岡OBのホテルでの実例を上げられ、米子ニューアーバンホテルは楽天トラベル・じゃらんと契約されており、両社の業界での市場占有率は6割から7割の独占状態。両社HPのクチコミ・お客様の声のページは重要でクチコミや評判情報など様々な書きこみがある。かなり神経を使うが顧客満足を図るには大変良いツールであり重要視している。また、お客様にはありきたりだがアンケート用紙を置き、生の声を聞くようにし、その際、住所・氏名のあるお客様に対しては地元の絵葉書を使って礼状を送付し大変喜ばれているそうである。(アンケートに記入されるのは旅の思い出で書かれる方が多数)

また、アンケートのフォームについては項目にチェックを入れるものではなく、自由にお客様の思っていることを書いていただく形をとっている。これはお客様の生の声を聞く為の手法である。最後に成功企業例、「ホテルリッツカールトン」と「ディズニーランド」のクレド(企業理念)について話され、なかなか真似をすることは出来ないが、普段から「勇気・行動・創造」を念頭に置き心掛けていけばおのずとCSにも繋がっていくのではと締めくくられた。(記事:ビジネス委員会 石川達也)



O B 訪 問

鷺沢淳一OB (17期ご卒会)

中央会ご入会のきっかけは？

長年、都会で某建材メーカーにて開発→営業と渡り歩き、その後、長男という事もあり地元へ帰郷。自身で商売をするにあたり、35歳の時、ある中央会メンバーの紹介で入会をした。

中央会は商売人の集まり、という印象があったので入会したが、実際現役の頃は、中央会員とのビジネスはほとんどしていなかった。それよりも楽しく集まって騒ぎ、お互いの人となりを理解していったように思う。

中央会の一番の思い出は？

中央会最後の年、宇佐美会長(現OB会長)のもと、副会長として境港地区の新入会員勧誘に奔走した。2代目やオーナーを探して、境港中の事業所を渡り歩いた。そのかいあって境港の会員も増えた。出席率の悪い会員の所には、自ら例会以外でも会いに行き、普段から積極的にコミュニケーションを図っていた。研修などもいろいろしたし、とにかく一人ではできない事を「人と一緒に」できた事が最大の魅力だった。また皆生トリアスロンの境港のエイドステーションでの「いわしのつみれ汁」も懐かしい。

近年最大のチャレンジ、変革は？

長年この仕事を一人で作ってきた。しかし近年は若い社員を積極的に採用している。

「人を育てる」というのが最大の変革だ。ただ年齢のギャップで「何を考えているのか？」

分らない時もある。お酒を飲んで本音を語り合う…という機会も少ない。とにかくしっかりと自己管理ができ、自分で考え自分で行動できる人間を育てていきたい。

現役に一言

年に数回しか会わない会員達に向かって自分が何かを言うのはおこがましいが、いつも綱領で言っている事を大切にしてほしい。自分の人としての質を上げ、人と会える機会を大切に、心からの親交を深めてほしい。今友達として理解し合っておく事が必ず役に立ってくる時がある。信頼を得るにはすばやく電話に出る事、これも普段から心がけている事の一つだ。そして全然仕事に関係ないことでも、困った時に相談しあえる仲にいる事は大きな財産だ。いざ仕事の時、各業種の人々が大きなプレーンとなってくれる。

中央会の思い出



中田耕治会員

青年中央会最初の難関とでも言える、役員会での新入会員面接。会場に入るまでは、適度な緊張感でしたが、入った瞬間一転、役員会の人数の多さとそこに流れる空気、重さの為、自己紹介で話す事柄を考えてはいたものの、必要最低限の言葉で終わってしまい、すごく緊張した事を覚えています。平成14年5月の入会ですから、1年おまげが付いて7年と1ヶ月の在籍予定となります。自分から入会させてくださいと言ったわりに、バッジの授与を受けたのが7月例会と、今考えると非常に不良新入会員での青年中央会スタートでした。その後いろいろ経験させて頂くうちにどっぷりと青年中央会に漬かり、33期会長。

「次年度会長を…」と声を掛けて頂き、光栄に思った反面、自分でよいのか？出来るのか？随分自問自答しながら考えた事、妻に「ここになおれ！」の勢いで怒られた事も良い思い出です。青年中央会で多くの友が出来、多くの先輩方と共有した時間、そのすべてがおおくの思い出であり、財産であり、これからの楽しみにも成ると感じています。

写真の試食三昧の上海FHC視察も楽しい1コマでした。気持ちはいつでも見えないTSC旗を持って行動している事を表して居ると見てください。

「さまよえる邪馬台国」出版記念講演レポート



去る1/23(金)米子市文化ホールにて、古代史研究家田中文也先生による「さまよえる邪馬台国」出版記念講演が開催された。会場にはたくさんの来場者。年齢層も幅広く氏の研究内容への関心の高さが

見て取れた。「邪馬台国山陰説を地域の財産にする会」の代表・花園直樹氏(当会OB第33期卒)の挨拶、そして来賓代表・水康徳会長の挨拶と、西部青年中央会ここにあり、と言える始まりであった。

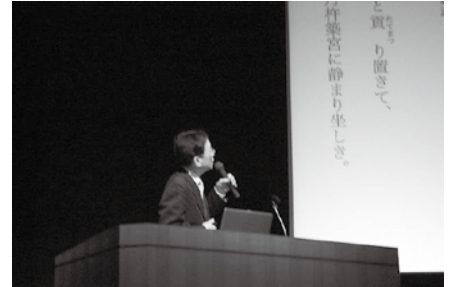
まず山陰の気候の特徴から解説。南方種、北方種の混在するのは山陰のみ、稲作に最も適している山陰、魚が沢山取れる山陰、など文明が出来る要素に溢れていると指摘された。自然採取経済から農耕文明へ移行していく中で「定住」されて行くが、ここ山陰は豊富な自然資源のおかげで比較的容易に定住されていったと推測できる。また古事記の中での記述は85%が山陰の事しか書かれていない。日本書紀、出雲の国風土記、神賀詞の文献を見ても「国造り」と「国譲り」の記述が一致するのは、山陰と考えるのが妥当であり、邪馬台国の畿内説、九州説には

無理が生じる。文献の中で胴の剣をまとめて埋めたとした内容も、近年荒神谷遺跡で発掘された事と一致している。

そして話は中国の歴史へ・・・。中国を始めて統一した始皇帝は、中国統一後10年間ひたすら「神仁思想」にある不老不死の薬を探して廻った。その中で徐福という男が始皇帝を騙し、最後は「数千人の少年少女」と「五穀」と「百工」を用意させ再び東海のある島(日本)に行き帰ってこなかった、とされている。

通常文明が出来るには数千年かかるとされるが、古代のある時期に日本にパッと文明が出現したのも、余程の有能な人々の手(徐福たち)によって意図的に作られたのでは?と考えられるのである。今でも出雲大社の神事で、日本海に面する海岸で神々を迎える儀式があるのも、徐福たちの上陸場所であった事を推測される出来事だ。

今後、邪馬台国山陰説が日本のスタンダードになっていく事で、この地に産まれた喜びと誇りを再認識する日が来るのも近い将来かもしれない。(記事:白石)



これが私の 変革 revolutionize

今年のスローガンである、変革「Change The Concept」。自分の変革を考えてみましたが、原稿〆切前日に担当記事に気づく始末で、なかなか思い浮かびません。とりあえず過去を振り返ってみました。

自分の人生の中での最初の変革。それは、小学校卒業時。本来ならば加茂中に行く予定でしたが、親の勧めで大阪のPL学園に入学しました。当時、桑田&清原が甲子園で一世風靡していた頃。何か面白そうという思いだけで何も考えてなかった私は、ほぼ即答で大阪に行くことを決意していたように記憶しています。

入学してみると、全寮制。しかも共同部屋で先輩も同室・・・プライベートのへったくりもないような所でした。食事は配給制で服は全員が同じ作業着。さらに基本的に外出禁止。夜になると、建物の周囲には赤外線センサーが設置される始末。赤外線が届かない所には、鉄柵が施されている完全体制。一言で言えば、檻の中。

親元でヌクヌクと育った中学1年生の自分にとっては、かなり厳しい環境下での生活でした。上下関係も結構厳しいものでした。しかしながら人間というもの、時間の経過に伴いどんな環境下でも慣れてしまうものですね。そんな厳しい環境下で育ったからか、体質的に自分を虐めるのが好きな性格になったような気がします。

どんな環境下でも毎日感謝して生活しなさい、当時よく聞いた言葉である。現在、物事に感謝できる心境になっているか、もう一度自問自答してみたいと思います。

そういえば、去年から取り組んでいる事がひとつありました。中学校当時、毎晩夜食としてお菓子が配給されていました。寝る前に何かを食べる悪しき習慣がついたまま現在に至っています。スナック菓子大好き人間でしたが、去年の秋から就寝前の飲食を控えるように努力してみました。そのおかげか単に体調が悪いのか不明ですが、結果として体重が8kg程度減りました。何かチャレンジして結果が伴うと嬉しいものですね。(記事:田中)



皆さん、こんばんは！こんにちは！お疲れ様です！等等中央会ならでの挨拶を一通りさせて頂きました。決してふざけてはいません。大人のご理解をお願いしたいと思います。今回は現在、私がさせて頂いているお店を紹介させていただけることに相成りましたので、よろしくお願い致します。

はじめに昨年8月からお店を引き継ぎ半年経つことが出来たことを皆様にご報告とご支援頂きました事を心より感謝申し上げます。



すみませんまだ店名のご紹介をしておりませんでした。店名は「焼肉 うえば」です。

お店の名前に負けないよう日々努力しておりますので、よろしくお願い致します。

営業時間、営業日はPM6:00～PM11:00(オーダーストップPM10:30)月曜 土曜ですが、ご連絡いただければ対応させていただきますのでお連絡下さい。



「厄落としの秘訣は…」 厄落としの会

平成21年1月12日(月)成人の日。気温0℃。前日より断続的に雪が降り、積雪は20センチを記録。そんな悪天候の中、今年も「厄落としの会」が開催されました。

正午より勝田神社で行われた神事には、対象会員30名中15名(後厄9名、本厄4名、前厄2名)が参加しました。本殿で御祈禱を受けたのち、厄除けのお札をもらい、最後に参加者全員で記念写真を撮って神事は終了しました。その後、場所を海潮園に移し、勝田神社での神事よりも「厄除け」効果が高いと言われる「懇親行事」が行われました。

懇親行事には神事から参加の10名に、懇親行事から参加の1名を加えた11名(後厄7名、本厄3名、前厄1名)が参加し、午後1時より、本厄内藤会員の挨拶に続いて、後厄佐々木会員の乾杯で始まりました。今回初参加の私は、周囲の和やかな雰囲気とは裏腹に、事前に過去の話を知っていたこともあり、これから繰り広げられる事態に備え、ひとり戦々恐々と緊張した面持ちでのスタートとなりました。途中、佐々木会員より「お前、顔が引きつっとおーがな!」と突っ込まれ、勧められるままにビールを飲むも酔払うどころかビールの味すら感じられずにいました。

そして開始から一時間、いよいよ懇親行事ならではの「神事?」が始まりました。恒例の?…いかにも厄除けに効きそうな「神事」が、これでもかと言わんばかりに繰り広げられました。そして、宴も終盤にさしかかり、あまりの事態にひとり呆然とする私に「いいか!ダラになあ一時は、ダラにならないけど!そーで厄も落ちーだけん。」と、渋いお声の増井会員より妙に説得力のあるお言葉を頂いた瞬間、それまで私の中で引掛かっていたモノが落ちていくのを感じました。そして今思えば、これが厄が落ちた瞬間で、「厄落としの秘訣は、ダラになってダラなことをするのが一番!」と、身を持って感じる事が出来た瞬間でもありました。



(記事:横山)

1月度委員会報告

政治行政委員会

平成20年1月8日(木)於:レストランぶどうの木 出席者/11名
議題/・役員会報告
・2月担当例会の件

環境問題委員会

平成20年1月9日(金)於:レストランぶどうの木 出席者/8名
議題/・役員会報告の件
・今後の活動の件

Neo・ラヴィ委員会

平成20年1月6日(火)於:鳥取県立武道館 出席者/8名
議題/・役員会報告の件
・1月担当例会の件

ビジネス委員会

平成20年1月9日(金)於:米子ニューアーバンホテル 出席者/7名
議題/・オープンセミナーの件
・講演「コミュニケーションについて」 講師:村岡誠一OB

エリアデザイン委員会

平成20年1月7日(水)於:米子ニューアーバンホテル 出席者/8名
議題/・3月担当例会の件
・蕎麦打ち体験の件

広報委員会

平成20年1月8日(木)於:魚ろばた 海座 出席者/7名
議題/・ハンサム編集の件
・打ち上げ旅行の件

総務委員会

平成20年1月7日(水)於:ペンションハトポッポ 出席者/13名
議題/・会員拡大の件
・忘年例会反省の件

編集後記

新春から始まった大河ドラマ「天・地・人」。

普段は面倒臭がりなので興味があってもチラッとしか見ないが、キャストがなかなか面白いので今回は観ようと思っている。

織田信長役の吉川晃司は、若い人はもうアイドルだったとは知らないだろうが、自分が若い頃は、カラオケでこの人の曲を踊って歌うとよく受けたので、コンサートなどにも行ったが、ファンにはすごいカリスマだった。織田信長、この人も大うつけとか色々言われながら新しいものを取り入れ、そのカリスマ性であと一歩で天下を取るとこまでのぼりつめた人だった。吉川晃司がその役柄に最初はどうかと思っただが、今は結構いいかなと思っている。天・地・人というのは、「天の時」「地の利」「人の和」この三つが揃って、天下を取れるということらしい。上杉謙信があつた時代に活躍できたのは、その時代だったからかもしれない。もし今、生きていたらどんなポストに就いていたんだろうか。会社経営者だろうかそれとも国を動かす政治家だろうか。もし中央会に入会していたら、会長になっていただろうか。天下といえば、朝からテレビでは第44期のアメリカ新大統領オバマ氏の就任式の話ばかり。大国アメリカの大統領といえば世界の天下人のように思えるが、テレビを見て思わず笑ってしまったのが移動に使っている車。戦国時代に上杉謙信が乗っていたのが馬なら、現代にアメリカ大統領が乗っている専用車は、地雷を踏んでも吹き飛ばないらしい、いったいどんな仕様になっているのかどんな高級車よりも興味が湧いた。

(記事:谷口)

2月役員会報告

2月定例役員会が平成21年2月2日(月)、米子食品会館にて開催されました。当日の主な議題は以下の通りです。

- ・1例会反省の件
- ・2月例会開催の件
- ・その他

※なお、詳細につきましては各委員長までご参照ください。

2月例会案内

と き:平成21年2月16日(月)19:00~開会

と ころ:米子全日空ホテル

内 容:仮想米子市議会小委員会開催

茅野新米子市長の公約「彦名を学園都市化し、人口集積および企業誘致・住宅建設の促進を図る」を問いただします!

担 当:Neo・ラ・ヴィ委員会